

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リコト岡崎駅南	階数	地上15階
建設地	愛知県岡崎駅南土地区画整理事業14街区2.3画地	構造	RC造
用途地域	準住居地域	平均居住人員	200人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年8月 予定	評価の実施日	2023年8月1日
敷地面積	1,948 m ²	作成者	嶺澤 健二
建築面積	430 m ²	確認日	2023年8月1日
延床面積	4,023 m ²	確認者	成瀬 德行



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)												
<p>BEE = 1.4 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆ 100%超: ★</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>138 (kg-CO₂/年・m²)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>46</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>92</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>138</td> <td>44%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%	②建築物の取組み	46	44%	③上記+②以外の	92	44%	④上記+	138	44%	
①参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%												
②建築物の取組み	46	44%												
③上記+②以外の	92	44%												
④上記+	138	44%												

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.1**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
<p>Q1のスコア = 3.5</p>	<p>Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3のスコア = 2.8</p>

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.5**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 3.8</p>	<p>LR2のスコア = 3.0</p>	<p>LR3のスコア = 3.7</p>

3 重点項目

<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>5.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>16.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.9</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)リコット岡崎駅南

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									3.1	
Q1 室内環境									3.5	
1 音環境									2.9	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									0.5	
1 開口部遮音性能									3.0	
2 界壁遮音性能									3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									4.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									-	
2 温熱環境									3.8	
2.1 室温制御									1.0	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境									3.1	
3.1 昼光利用									0.2	
1 昼光率									0.3	
2 方位別開口									3.0	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									0.3	
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気質環境									3.7	
4.1 発生源対策									0.2	
1 化学汚染物質									0.6	
4.2 換気									0.4	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									-	
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
Q2 サービス性能									2.9	
1 機能性									2.6	
1.1 機能性・使いやすさ									0.4	
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									0.3	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									0.3	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									3.0	
2 耐用性・信頼性									3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.0	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.3	
1 躯体材料の耐用年数									5.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									4.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔									2.0	
2.4 信頼性									0.1	
1 空調・換気設備									3.0	
2 給排水・衛生設備									3.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	

3 対応性・更新性				0.2	3.2	0.29	3.1	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり				-	-	-	3.2	3.2	0.50	
	1 階高のゆとり		階高2.91m以上	-	-	-		4.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ			3.0	-	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.2	1.00				
	1 空調配管の更新性	②		-	-	-				
	2 給排水管の更新性		性能表示「維持管理対策等級 2等級」取得	3.0	4.0	0.20				
	3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.13				
	4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.13				
	5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.27				
	6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.27				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	周辺一帯の眺望を確保した計画	-	4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30				3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50				
	3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性										3.5
LR1 エネルギー					-	0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			性能評価 断熱性能等級4相当	3.0	4.0	0.33				4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.88	3.0	4.4	0.33				4.4
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17				3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-				
	4.1 モニタリング			3.0	3.0	-				
	4.2 運用管理体制			3.0	3.0	-				
	集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00				
	4.1 モニタリング			-	3.0	0.50				
	4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				3.0
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15				3.4
	1.1 節水		節水型便器・節湯機器等使用	3.0	4.0	0.40				
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60				
	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00				
	2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63				2.7
	2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07				
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24				
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.20				
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	1.0	0.20				
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05				
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	フリーフロア	3.0	4.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22				3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32				
	3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68				
	1 消火剤			-	-	-				
	2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3程度	-	4.0	0.50				
	3 冷媒			3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.7
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率44%	-	5.0	0.33				5.0
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33				3.1
	2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25				
	2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50				
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25				
	1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25				
	2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25				
	3 交通負荷抑制	独自	駐車場、駐輪場等、適切なスペース・導入路の確保。	-	5.0	0.25				
	4 廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33				3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40				
	1 騒音	独自		-	3.0	1.00				
	2 振動	独自		-	-	-				
	3 悪臭			-	-	-				
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40				
	1 風害の抑制			-	3.0	0.70				
	2 砂塵の抑制			-	1.0	-				
	3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30				
	3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20				
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		良い照明環境について検討。広告照明を行わず。	-	4.0	0.70				
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30				

重点項目スコアシート
(仮称)リコト岡崎駅南

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10
② 資源の有効活用			2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:16.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)リコット岡崎駅南

計画上の配慮事項	
総合	<p>外装には、アースカラーを採用し、周辺環境に配慮。 道幅18m(都市計画道路)の道路沿いにあり、800mほど行くとJR岡崎駅があり、交通の便が良い。 岡崎医療センター・保育園・小中学校・ショッピングセンター等が近くにあり、快適に住みやすい環境にある。また岡崎警察署の移転先に近く、治安上も安心である。</p>
Q1 室内環境	<p>床スラブは、約230mm～250mmの厚みを確保し、階下への衝撃音の伝わりを軽減。また、強度を落とさずにスラブ自重を軽減、天井に小梁のない広い空間が確保できるボイドスラブを採用。 建材はF☆☆☆☆をほぼ使用。 採光・通風をできる限り確保し、居住性を高めるように配慮。</p>
Q2 サービス性能	<p>共用部は間接照明を利用し、内装を計画。 インターネットの集合一括契約、地上波デジタル放送、BS・CSアンテナから受信する電波(4K・8K対応)の混合配信等情報通信設備の充実。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>防犯カメラの設置、遠隔監視システム、オートロックシステム、進入防止格子等により防犯性に配慮。 駐車台数に考慮しつつ、道路沿いに緑地を設ける様配置。</p>
LR1 エネルギー	<p>外皮の熱貫流率0.87を各住戸クリアし、断熱4等級の断熱仕様とし、一次エネルギー消費量等級4等級をクリアできる様にした。 共用部、外構の照明、非居室はLEDを使用し、消費エネルギーの低減に配慮。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節湯・節水機能を充実し、資源の保護に配慮。 有害物質を含む材料を極力使わないようにし、各接着材料の化学物質排出はないものを使用。</p>
LR3 敷地外環境	<p>敷地内にて出来る限り建物を南へ配置し、周辺建物へ日影の影響を低減。 騒音等 法令を遵守し、地域環境に悪影響を与えないように配慮 敷地への進入路を2ヶ所設け、渋滞発生緩和を考慮。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>